

牛深市大島——いつても周囲四キロの小島に過ぎず、牛深の港からポンク船でも四一五〇分、距離にして約五キロの離島である。人口四〇〇のこの島にはまだ電燈がつかず、ラジオ一台、電話機一基、いわば多文化の孤児ともいえる寒村である。



波に浮ぶ「大島」の遠望

### 屋根は瓦ぶきだが……

高橋市長の厚意でさし立てられた小蒸気に市教委の梶原社会教育課長と同乗、薄ぐもりの牛深湾に乗り出したのは、十六号台風の予告におびえた十月六日の午後。だが海は風いでいてエンジンの振動が快くひびく。

港外に出るとすぐ正面に遠望される大島は、紫にけむつて小舟を伏せたような恰好に横たわっている。中央やや右より灯台が見える。二十七年の十一月建てられた無人灯台で、光源はアセチレンだという。

船は左に廻つて島の南側に出る。乱立した岩礁を正面に、ぐつと右折すると小さい砂浜の湾、五七戸の民家が無秩序に群立している。そこが船つき場だ。驚いたのはその民家が皆瓦ぶきということ。だが、それは必ずしも美観をねらつたのでなく、強い潮風への防備だという。つまり必要に迫られてのものだ。

### 十四号台風のおと……

上陸してまず目についたのは十四号台風の爪あと。どの家も全部高汐に洗われたらしく、妙に白々とそそ毛立つている特に左端の公民館と教員住宅というのは根こそぎ持ち去られてコンクリートの敷石だけが痛々しい。浜辺には素裸に近い子供たちが群れてジロ／＼私たちを見る。家々には例外なく豚小屋があり、い

ちじくが広い葉を道の上までさしのべている。鶏がけたましく逃げ廻る小道を行くと、田んぼに出た。三〇アールもあるうか、全部赤ちやけて高汐のおとはこにも歴然たるものがある。豊年だというのに、全島でわずかこ、だけという水田が収穫皆無だとあつては、いかに配給時代でもガツカリするだろう。

### まず電気を……

小学校はこの道のつきるところ、溝をへだてた僅かな平地に建てられている。小ざつぱりした建物で放課後の校庭にはまだ生徒たちがさわいでいる。左方に四五本の老松が枝をばつた下に宿直用の住宅があり、ブランコには子供がのついている。佐々木校長は五十近い温厚な人で、快く職員室に招じてくれた。

### 以下先生の話

学校の正式な名は牛深小学校大島分校で、中学の分校も併設してある。小学校が二学級で六六名、中学が一学級で一九名の計八五名だ。進学者は例年皆無というからこゝが最高の教育機関というわけ。先生は外に三名。

### 職員室に一台の立派なラジオがある。

去る三年にNHKが寄贈したもので、これが島に唯一の娯楽施設ともいえる。もつとも出漁の船は天気予報などの関係もあつて皆ラジオを備えているというが、出漁したら一カ月も帰らぬことがあるのでふだんの役にはた、ない。クレークリエーションとして外には？

### (次頁下段へ)



(前頁から) 分校と本校との生徒の交歓を行つたり修学旅行にもいっしょに行くと、先生達の心づかいもよくとゞいてる。内牧小学校の藤本校長も「十一月中旬には、本校から各科目の先生を連れて授業交換にきますよ。」といつている。僻地の教育問題はまだ／＼つきない。だが、教育のみならず、生活全般を通じて僻地の人々の実態は、私達に色々な問題を投げかけている。

× × × 今日もまた、秋空の彼方に連なる山々の中には、文化から隔絶された人々が、不自由な生活を続けていることを忘れてはならない。  
(「遊びをするにも全生徒が出なければ足りない……深葉分校にて」)

## かすじで

いままで就職で困難な立場におかれていた、母子家庭などの児童の就職促進に役立つために、知事が代つて身元保証人になることになりました。これはさる九月県会において成立をみた「熊本県母子家庭等の児童の身元保証に関する条例」に基づいて、この十一月一日から実施されることとなつたものです。そこでこの制度のあらましを紹介しましょう。

### 身元保証を受ける児童の資格は

- 本人が就職する時に、満二十才未満であること。
  - 他に身元保証をする人がいないこと。
  - 県内に引き続き一年以上居住していること。
  - 素行が正しいこと。
- 以上のほかに、本人が母子福祉資金の貸付等に定めてある「配偶者のない女子」が現に扶養している児童であるか、「父母のいない児童」又はこれらに準ずると知事が認める児童となつています。

## 知事が身元保証人に

### 母子家庭等の児童の身元保証制度とは

### 知事ほどの程度まで、どんなことを保証するか

これは、知事と使用者との間に結ばれる身元保証契約によつて行われます。知事は、本人(児童)の責任によつて使用者に与えた損害について賠償しますが、その限度は二〇万円。身元保証の期間は三カ年。賠償の回数は一回だけになつています。

### 保証を受けるときの手続き

知事の身元保証を受けようとする時は、本人が居住している市町村の役場(市の場合は、福祉事務所)に申請書の用紙がありますので、それに所定の事項を記入し、同時に、戸籍謄本、住民票、最終学校の成績証明書、性行証明書、身上調査及び写真をつけて、市町村役場(市は福祉事務所)に提出して下さい。書類は市町村から県事務所を経由して県に提出されますが、知事が身元保証をすることに決定したときは、本人に身元保証決定通知書が渡されます。その後、本人が就職したとき、使用者から身元保証契約締結の申込みがあれば契約を締結して、本人の身元保証をするわけです。

このように、県では今まで母子家庭の一つの大きな悩みとなつていた子女の就職に、物心両面から援助の手を差し伸べることになつたのです。(婦人児童課)

### (前頁から)

と聞けば、それが全くないらしい。何しろ電気の来てないのが致命的で、第一映画ができない。わざ／＼招けば一万円はかゝるといふからこの村の負担には重すぎる。この十五日が運動会で部落総出のにぎわいというが、それに十一月十四日の村祭が最大の楽しみというところ。無論電灯もないので夜はランプ、それも豆ランプの家さえあるというから大変だ。何にしても早く電気を送りたい。準備は進んでいるらしいから長いこともあるまいが、これは心からなる叫びだつた。

### 文化つきるところ……

幸い水は豊富(突井戸)だというが、水田は前記の三〇アールにすぎず、他は全部丘陵の段々島で、麦と甘藷が主作物面積は約十一ヘクタール。男が主として漁場に出るので、牛馬のいないこの村では耕作と家事は女の役目。その上こゝは海女が有名で、七、八月のころは盛んに海へもぐつて、おもに海草(まくり)やウニ、アワビなどをとるといふ。中学を出た子供たちも男は早速海に出るし、女は家事に服するか、牛深あたりへ女中に出る。近年は紡績工場に行くのもポツ／＼あるそうだ。牛深との交通は朝夕二往復の小蒸気が定期便だが、一往復八〇円は軽い負担ではなく、町へ出ることも容易でない。いい忘れたがこの村にはもちろんお医者さんもない。店に



(「カメラを構えるとハダシの子供達が集つてき

一本の電話が通じているだけなのに、老人や子供を主としたこの村で、突発の事故や病人でも出たらどうするだろう。島全体の文化的レベルを上げる、それには、この小さな部落だけの力に待つことはできない。「僻地に文化を」ということも、呼びかけだけに終わらせてはならないのではないだろうか。(広報課)